

書 評

中性子星の世界

二見靖彦 著

(サイエンス社, 昭和 58 年 2 月刊, 1350 円)

中性子星を題材にとって、原子核物理、量子論、物性論などを、平易に紹介した本である。数式は使わないが、巧みな比喩でカバーしているため、門外漢にもわかり易い。著者の物理一般に対する深い理解を感じる。したがって、物理へのイントロダクションとして勝れている。巻末の参考文献リストも充実していて、読者が興味を持って、次のステップへ進むときのための配慮が行きとどいている。

この本のような、ある対象にスポットライトをあて、いろいろな角度から調べていく内に、広い分野の知識が得られるという本は、いそがしい時代の根気のない教養人には重宝だろう。総合科学である天文学は、この目的にちょうどよい。この線に沿った天文学者からの啓もう活動が今後も活発に行なわれるだろう。この本はその手本となる本だ。

著者は、中性子星の研究が原子核物理へ与えた影響に

ついて次のように書いている。「中性子星のような高密度の物質が天上に存在するということは、原子核を幅広い密度の観点からとらえ直す機会を与えてくれた。」高密度、高温、高真空、強磁場など、多くの極限状態をあつかう天文学の役割の一つが、ここにあるのかも知れない。人間は、ある極限状態がこの世に存在するというだけで、それについて真剣に考える気力が湧くものらしい。これが大発見につながることもあるだろう。「天文学などやって、何の役に立つのだ。」という問いに対する答えに、いつも困っている私としては、私の今やっていることが他の分野の学者を刺激し、人類の繁栄に寄与する発明につながるよう祈るだけである。

(戎崎俊一)

☆ ☆ ☆
☆ ☆
☆

わが国唯一の天体観測雑誌

天文ガイド

定価380円(〒70)'83-11月号・10月5日発売!

11月号のおもな内容

- ★秋の星雲・星団観測ガイドは、晩秋の象徴『プレアデス』です。ガスに包まれた美しい星雲の観測法を!
- ★カスタム・クラフトPartIIIは、シュミット・カメラの製作です。本誌プロジェクト・チームの担当。
- ★毎回好評のレンズテスト。今回は85ミリF2レンズシリーズ。ニコン・キャノンなど5社の製品をテスト。
- ★痕の残る流星を、痕と流星別々に撮影する法について杉本智さんのアイデア豊かな新流星カメラを紹介。
- ★そのほか、観測ガイド、同好会だより、星表の使い方、マイコン教室、テレスコープ、エンジンアリング、彗星ガイド、流星ガイドなど……。また「星空への招待」の状況もこの号に掲載されています。

★天文工作室★

■ 作例集

定価1200円

手づくり天体観測所

■ 研磨から赤道儀まで

定価1400円

本格派のための
反射望遠鏡の製作

定価1200円

ポータブル赤道儀の
作り方

定価1100円

15cm 反射望遠鏡の作り方